

演奏に役立つ One Point Lesson

SAXOPHONE

サクソフォーン

タンギングについて

大石将紀 おおいし・まさのり



◆出身 千葉県立船橋東高校、東京芸術大学、パリ国立高等音楽院
◆所属 東邦音楽大学
◆趣味 旅
◆血液型 B型
◆星座 おひつじ座
◆読者にひとこと 旅に出よう！
◆手紙の送り先 BJ 氣付

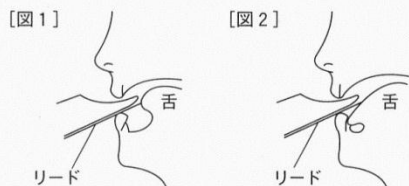
サクソフォーンを始めたころ「美しく、そして速いタンギングをするのはとても難しい」と感じていました。これはプロの先生に習うようになって、さらに自分が教える立場になっても、相変わらずそう思っています。

なぜなら、舌には繊細な動きが求められるのに、楽器を吹いているときの口の中は見えないから……。やはり、出ている音をよく聴いて、耳を頼りに口の中がどうなっているかを想像するしかありません。いつも言っていますが、みなさんも自分の耳でよく聴きながら練習を進めてください。

さて、タンギングで難しいのは「音の美しさ」「スピード」の2点です。両方に関係する基本的なポイントを挙げてみます。

■舌のどのあたりが、リードに触れる？

舌の先端（[図1]）、または先端から1cmくらい（[図2]）までの間のどこかでリード



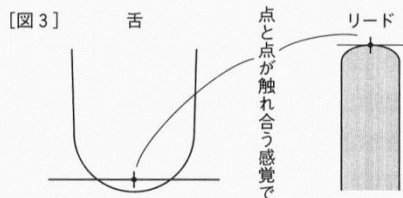
に触れます。「先端派」か「中寄り派」かは、人それぞれなので、最もむだな動きがなく、速くリードに触れられるポイントを探さなくてはなりません。次の方法を試してみましょう。

①楽器をくわえずに「Fu（フー）」「FuTu（フチュー）」「FuTuTu（フチューチュー）」「FuTuTuTu（フチューチューチュー）」と「Tu」を徐々に増やしながら声に出してみます。うまく言えたら、今度は声を出さずに息をしっかりと出しながら、同じように舌を動かしてみます。このとき「Tu」をはっきり言おうとせず舌の力を完全に抜いて、息の流れに舌の動きをのせる感じで軽やかに舌を動かします。「Tu」と言っているとき、舌の先は上の歯の裏に触れていると思いますが、できるだけ歯から舌を離さずに、「TuTuTu」を

速いスピードで言えるようにしましょう。
②息に乗る舌の動きをうまくつかめたら、楽器をくわえて「FuTuTuTu〜」とタンギングします。息をしっかりと入れ、その流れに乗った状態で「FuTuTuTu〜」と軽やかに舌が動いたときにリードに触れる場所、このポイントが、あなたにとって「タンギングがすばやく、きれいにできる位置」である可能性が大了。

■リードのどこに、舌が触れる？

舌はリードの先端に触れるようにします。リードの先の1点と、舌のある部分が1点でやさしく触れ合うようなイメージです（[図3]）。もし面と面が接触すると、雑音が入



たり、スラップタンギング（舌をリードにくっつけた後に離して、「ポンっ」と打楽器のような音を鳴らす特殊奏法）のようになってしまうので、あくまで「優しく」。リードを舌に押しつけてはいけません。

■もういちど、舌の位置を確認

さきほどやった「FuTuTuTu〜」の最後の「Tu〜」をのばしているときの舌の位置を覚えておいてください。タンギングをするとき、またタンギングをしないときも、基本的にここにあるようにしましょう。息の流れを邪魔せず、またタンギングにもむだなくすぐにアクセスできる位置です。ロングトーンをするときも舌はここ！

■下あごは？

ふだんのアンブシュアが嘸みすぎていると、音がつぶれてタンギングもうまく発音できなくなってしまうので注意が必要です。また、タンギングのたびに舌が必要以上に大きく動くと、つられて下あごも動いてしまうことが

あり、音程が不安定になります。下あごは動かないようにしましょう。

■美しくタンギングするための練習法

舌とリードが接触するとき、雑音が出ないようにすることが大切です。両者が点と点で接触するための練習法として、「ハーフタンギング」というテクニックがあります。ジャズや現代音楽でアーティキュレーションや音色に変化をつけるときに使いますが、舌先の微妙な動き、力加減を習得するのによい練習です。

- ①低音の「ソ」をロングトーンします。
- ②「ソ」を鳴らしながら、リードに舌をそっとつけます（タンギングのときの位置で）。息を多めに入れてしっかりと支え、流れを止めないように！
- ③普通に舌をリードにつけると振動がすぐに止まって音も消えますが、両者が点と点でわずかに触れ合っているとき、息を止めない限り「ソ」の音はくぐもった感じの弱い音で鳴り続けます。力加減や接し方などを調節しながら、その点と点を探ります。
- ④点と力加減が見つかったら、普通のロングトーンとハーフトーンを交互に鳴らします。

■速くタンギングするための練習法

最初の練習をもう一度やってみます。真ん中の「ド」を吹きながら「Fu〜」「FuTu〜」「FuTuTu〜」「FuTuTuTu〜……」と、できるだけ速くタンギングしながら「Tu」の数をできるだけ増やしていきます。舌は力を完全に抜き、リードの先に触れるか触れないかぐらいのところから最小限の動きでリードを狙うことが大切。最初は「TuTuTu」をすべてきれいに発音しようと思わず、音が抜けてもよいぐらいのつもりで力を抜いてやってみて、動きのコツをつかみましょう。息をしっかりと入れることも忘れずに！

「ダブルタンギング」という超高速上級裏ワザもありますが、これは後で紹介します！